

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



東京都庁 第1本庁舎(新宿区)

西徳寺の予定

7月

- | | |
|---------------|--|
| 6日(水) 午後7時半 | 燈虹塾セミナー |
| 9日(土) 午後5時半 | 同行会「宗祖親鸞聖人」に聞く
法話: 蓮井 邦宗 |
| 13日(水)~16日(土) | 盂蘭盆会
(10日よりお盆体制となり、新盆を中心にお参りに伺います。) |
| 23日(土) 午後2時 | 定例間法会 |
| 24日(日) 午後1時半 | 中央ブロック会間法会 |
| 27日(水) 午後1時半 | 婦人会間法会 |

8月

- | | |
|---------------|------|
| 13日(土)~16日(火) | 盂蘭盆会 |
|---------------|------|

※コロナ禍でありますので、予定は変更することがあります。
詳しくは寺務所までお問合せください。

顧問の一言

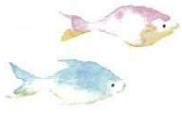
旦那(だんな)

お金を差し上げる意味のサンスクリット語、「ダーナ」がそのまま音写されて旦那と言うようになりました。ウクライナへも巨額のダーナが寄せられています。今日では厳しい社会状況の中で、旦那の見栄っ張りが時代遅れとなり、特に家計は女性が担当することが多くなりました。



7月の山門の言葉

師の跡を求めず 師の求めたるところを求めよ 藤原敏男(キックボクサー)



「ほら、見てごらん！」上空の飛行機を指さしながら、当時まだ幼い我が子に語りかけた。我が子は私の指先を凝視している。「違う、あっち！上！」どんなに言っても指先を見ていた。

龍樹菩薩の『大智度論』に指月の譬えがある。師が月を指さす、弟子はその指に囚われ、月を見ないという。それだけ聞くと「そんな馬鹿な」と笑えるが、もっと具体的には、教えを聞く私たちが「先生が言うんだから間違いない」「先生の言うことを聞いていれば大丈夫」「この言葉はこういう意味だ」という聞き方なのだという。

師がしていることを見よう見まねでまねぶ。「学ぶ」の語源と言われる。何事も最初はマネから入るが、そこに止まってしまふことが多いのではないか。私たちはその師を尊敬するほど、師をお手本にして答えにしてゆく。

そこを突破して、師の求めたる方向に向けたならば、それは一方的に教えてくれる師(先生)に止まらず、共に歩む同朋(友達)という関係が自ずと開かれてくるだろう。真の師弟はそういう共同作業なのであり、よき師ほどそれを願っているのではなからうか。

私はそこに法然上人と親鸞聖人との関係を重ねる。「親鸞の信心も、法然上人の信心も同じ」と言い切り、他の門弟たちから非難された親鸞聖人。それに対し「法然も親鸞も如来より賜った信心。ただひとつ」と返答された法然上人。そこには師(法然)の求めたるところを求めめる親鸞のすがたがある。お互いが歩む力を生み出し合う関係になることである。それは仏道に限った話ではない。

(山崎哲記)

ランドマーク 東京都庁

千代田区丸の内にあった旧庁舎(跡地は東京国際フォーラム)の老朽化、新宿副都心計画の一端として、1990年(平成2年)に建築家・丹下健三氏設計によって完成した東京都庁。第1本庁舎はパリのノートルダム大聖堂を模して建てられ、当時は「バブルの塔」「タックス(税金)タワー」などと揶揄されていました。しかし今となっては東京の代表的なランドマークとなり、第1本庁舎・第2本庁舎・都議会議事堂の3棟で、東京都行政の中核機能を担っています。

現在は新型コロナワクチンの接種会場となっているため利用できませんが、普段は地上202メートルの高さから、東京の街を無料で一望できる展望台があり、また入庁手続きをすれば食堂も利用することができます。



下から見上げた都庁



東京都議会議事堂

うばだいしゃ ～共悩共歩～ テーマ「時代」

優婆提舎(うばだいしゃ)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:浄土論=無量寿経優婆提舎願生偈)

【時代に流されて】

今回は時代をテーマとして、大谷義博 最高顧問にお話を伺います。

◆一枚のハガキから東京へ

昭和三十一年三月三十一日に西徳寺に入ったんだ。島根の田舎で育って、戦争も経験した後、ある日急に大都会東京にある西徳寺からハガキが一枚届いたんだよ。勉強が嫌いで、高校時代から悪い事ばかりしていたな。当時は檀家のいない実家の寺を出て、ブラジルで農業するのが夢だったんだ。

東京に来てからもロクに仕事しないで、お経を読みながら安保闘争の学生運動に傾倒していったんだ。自分の事は考えなくて時代に反発する、若者のエネルギーに流されていたんだな。

◆輪番に

そんな中、昭和四十五年の八月に、当時の輪番だった楠正康さんが急死され、一か月後の九月に、先代住職の奥様だった渋谷文子さんが亡くなられた。西徳寺の中心人物だったお二人が亡くなられたことで、大きく人生が変わったね。総代から「大谷君しかいない！」と言われ、三十三歳で輪番代務になったんだ。窮地に立たされて、逃げ出したくなるような重圧を感じていたよ。

◆担う覚悟

当時の御門主(二十九代 真照上人)にも親しくしていただいて、昭和四十八年の親鸞聖人誕生八百年法要

を機に覚悟を決めたんだ。「やってやろう」と。同行会・青年会・婦人会・出かけていく聞法会を矢継ぎ早に創設して、正式に輪番の職に就くことになったんだ。その後、一度は断ったんだけど、人に推されて本山の宗務総長にもなって、色々な人の中で育てられたなど、今になって思うね。

今の時代は個人が中心で、その背景である国や先祖を考えることが少なくなったように思うね。

でもまあ今、これまでを振り返ってみると、時代に流されて、成るようにはか成らなかつたと思うし、この年になって色んな人に支えられておることを実感しているよ。

(聞き手 仲井真裕)



きみょうほうえ
帰命法会

～関東大震災百回忌を機縁として～

今年9月1日は関東大震災から99年。百回忌となります。西徳寺では本堂倒壊など大きな被害があり、ご門徒の8割が亡くなられたといわれております。

そこで3回にわたり西徳寺にて追悼法要「帰命法会」を勤修し、芸能をご奉納いたします。この百回忌を機縁に、関東大震災に止まらず、多くの命と願いの上に私たちが生活していることに思いを馳せ、皆様と共に勤めをさせて頂きたく存じます。

後日、改めてご案内をお送りいたします。

西徳寺住職

令和4年9月3日(土)午後1時から

勤行・法話(山崎住職)・お囃子(望月社中)・
 神楽奉納(吉福社中・小林太郎様・ミカド香奈子様)・
 浪曲(玉川奈々福様)

令和4年12月11日(日)

予定:勤行・法話・奉納(伊勢大神楽)

令和5年3月11日(土)

予定:勤行・法話・奉納(行山流鹿踊:東北地方)



書籍紹介

本山佛光寺のすぐ近くにある大善院の佐々木正祥住職が、長年、月刊誌に連載されていたコラム、「今どきマンガ説法」をまとめられ、出版されました。

日常語として使っている仏教用語や、流行語について、「気軽に仏教の教えに親しんでもらえたら」という願いを込められた、ユーモア溢れる一コマのマンガで記されています。

個人的に「ウイルス」というキーワードで書かれた一コマを、興味深く読ませていただきました。新型コロナウイルスを恐れる私たちですが、地球から見ると、私たち人間こそが絶えず変異するウイルスのような存在であると書かれています。自己中心的な物の見方しかしていないことに気付かせてもらえました。

ユーモアの中に大切な視座をいただけるマンガ、おすすめです。

お求めはインターネット通販サイト、またはお近くの書店にご注文ください。

(仲井 真裕 記)



『マンガ de 仏教
 111 キーワード』
 佐々木 正祥 著



評議員会総会

6月17日(金)、西徳寺本堂にて評議員会総会を開催いたしました。対面での総会は2年ぶりでしたが、皆様お変わりない様子で嬉しく思いました。

竹内会長からは、「来年5月に本山佛光寺で勤まる慶讃法会には、久しぶりにみんなでお参りしましょう」と、団体参拝旅行のご案内をいただき、徐々にですがコロナ禍中の活動に意欲を示されました。

今年度も会員の皆様には何かとご負担をお掛けいたしますが、各法要、聞法会へのご協力をよろしくお願いいたします。(大橋 伊知郎 記)



竹内乾一郎 評議員会長

城西ブロック会報告

5月22日(日)西徳寺を会場に、約2年ぶりの総会・聞法会を開催することが出来ました。総会に於きましては、昨年度の活動と新年度の予定等を報告し、今後の活動が円滑に進むようご審議頂きました。

また、聞法会では久しぶりの法話に耳をかたむけ、どことなくウキウキされている表情が印象的でした。

その後は希望者のみで懇親会を行い、久しぶりに楽しい時間を過ごせたことは、大変嬉しく思っております。

次回は10月2日(日)に聞法会を予定しております。

(大橋 伊知郎 記)



城北ブロック会報告

6月12日(日)、西徳寺2階、梅檀の間におきまして、城北ブロック会総会・聞法会を開催いたしました。

実に3年ぶりとなった総会は、どこか緊張感の漂う中、予算や事業計画について審議いただき、ご承認をいただきました。

聞法会では、大谷顧問より「生老病死をいただけるかどうか課題だ」と、釈尊・七高僧・親鸞聖人を通して、私たちに手渡されている南無阿弥陀仏について考えさせていただきました。また今年、百回忌を迎える関東大震災。その7年後に建てられた、西徳寺の本堂についてもお話があり、皆様も興味深く聞いていらっしゃいました。

次回は11月13日(日)、西徳寺において聞法会を開催する予定です。

(仲井 真裕 記)



「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。



坊さんのツブヤッター



@イチロー

「坊さんは人前で話すことも多いし大変やな」と言われることがあるけど、寧ろ、聞いている人の方が大変だと思う。

実は、「聞く」って簡単なようで、簡単ではないということを感じる。話すことが好きな人であればより一層強く感じますよね、おそらく・・・。

今の時代は発信がメインの時代という事なんではなかね、と呟いてみる。

#令和 #時代 #発信がメイン #話し好き #「聞く」は難し

内愚外賢

～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～

昨年末をもって解散した仏教青年会にご寄進いただき、西徳寺の本堂真下、永代供養廟にある賽銭箱を新調いたしました。

思いを形に変えてお供えするお賽銭、元はお米を散く散米さんまいであったそうです。喜び捨てる喜捨きしよという言葉もありますが、仏・法・僧の三宝を守るため、また財物に対する執着や物欲から離れるという意味があるそうです。

ちなみに本堂の前、階段下にある賽銭箱は昭和6年、本堂内にある賽銭箱は昭和35年(親鸞聖人7百回大遠忌法要)に、それぞれご寄進いただいたものです。

(編集長 仲井 真裕 記)



えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com
🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook